



ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 108

<https://lora-saga.jp/> <https://lora-saga.jp/ialt/>

〒840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学理工学部内 TEL/FAX : 0952-28-8712 令和5(2023)年10月23日

低平地研究会

創立30周年記念シンポジウムのご案内

本年11月に低平地研究会は創立30周年を迎え、その記念事業として12月2日(土)、佐賀大学に於いてシンポジウムを開催いたします。第一部は特別講演会で、吉竹顕彰氏(気象予報士・NHKニュースキャスター)をお招きし、「気候変動と気象報道」と題して話題をご提供いただきます。第二部では引き続き吉竹氏にもご参加いただき、4名のパネリストと共に「豪雨災害とこれからの低平地との付き合い方」というテーマでパネルディスカッションを行います。シンポジウム終了後には意見交換会を開催いたします。

参加申し込みは、チラシ・ウェブサイトにて案内のフォームまたはEメール:lora@lora-saga.jpより承ります。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

低平地研究会
創立30周年記念
シンポジウム

主催: 低平地研究会 共催: 佐賀大学理工学部
後援: 国土交通省九州地方整備局 協賛: 佐賀県 佐賀市 佐賀県環境政策推進課

令和5年12月2日(土)
14:00(開場13:30)~17:30
会場: 佐賀大学理工学部6号館1F都市大講義室
(佐賀市本庄町1番地)

定員: 180名
入場無料
※定員に達した場合は抽選となります

第一部 特別講演会
● 特別講演『気候変動と気象報道』

14:00~開会挨拶
14:05~特別講演
14:10~15:40
特別講演者

講師: 吉竹 顕彰(よしかた けんさき) 氏
気象予報士、気象キャスター、NHKニュースキャスター
NHK総合テレビ「気象予報」1990年~1994年、NHK衛星1「気象予報」1994年~1997年、NHK衛星2「気象予報」1997年~2000年、NHK衛星1「気象予報」2000年~2003年、NHK衛星1「気象予報」2003年~2006年、NHK衛星1「気象予報」2006年~2009年、NHK衛星1「気象予報」2009年~2012年、NHK衛星1「気象予報」2012年~2015年、NHK衛星1「気象予報」2015年~2018年、NHK衛星1「気象予報」2018年~2021年、NHK衛星1「気象予報」2021年~2023年

第二部 パネルディスカッション
● テーマ: 豪雨災害とこれからの低平地との付き合い方
~ パネリスト: 吉竹 顕彰(気象予報士、NHKニュースキャスター)
中野 隆史(佐賀県立大学 工学部 教授、気象予報士)
水谷 孝彰(佐賀県 農工部 部長)
松本 正一(佐賀県 農工部 部長)
高田 基次(佐賀県 農工部 部長)

コーディネーター: 大会会長
(低平地研究会 理事委員長、佐賀大学理工学部 教授)

意見交換会
別途参加が必要ですが、意見交換会参加は無料。11月12日
18:00~19:00
会場: 佐賀大学の中庭(土) 無料(立席参加)
定員: 500名(先着順) ※定員に達した場合は抽選となります

参加申し込み 定額 11月25日

特別講演会、パネルディスカッションへの参加は、
お申し込みのうえに申し込み用紙を提出していただきます。
お申し込みは先着順となっております。定員に達した場合は抽選となります。

■お問い合わせ先: 低平地研究会事務局(佐賀市本庄町1番地 佐賀大学理工学部内)
Eメール: lora@lora-saga.jp | lora-saga.jp | 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
FAX: TEL: 0952-28-8712 担当: 奥野

環境専門部会

ASIAN Collaborative Seminar Program for Smart Lowlandの開催

9月4日(月)~8日(金)に、インドネシアのハサスディン大学において、ハイブリッド形式で開催いたしました。今回から追加した“Smart Lowland”は、いわゆる情報化という意味も含まれますが、より賢い低平地の利用へ、を目標としています。参加大学は例年参加のインドネシアンのハサスディン大学、ランブンマンクラット大学、ベトナムのカントー大学に加え、インドネシアのサムラトランギ大学、新しく学部間協定を締結したタドゥラコ大学でした。各大学から10人の講師が話題提供し、学生・研究者が聴講者として参加しました。参加人数は137名で、そのうち本学からは5名の日本人学生も参加しました。今回の参加者は学生への情報提供だけでなく、教員間の情報交換にもなり、有用な機会でした。

2023年1月から、本学では戦略的パートナーシッププロジェクトが開始されました。その中でハサスディン大学との交流深化が進められており、これが更なる低平地研究の発展に貢献できれば幸いです。



グループディスカッションの様子

「インドネシアの低平地」

各国の低平地の中でもオランダは有名ですが、インドネシアのカリマンタン島にある南カリマンタン州の低平地に着目し、地理的特徴、農産業文化における佐賀低平地との共通点、課題を紹介します。

大規模河川のバリト川を始めとした河川流域に広大な低平地が拡がり、隣接州まで含めるとその低平地は150km×100kmの規模です。バリト川は干潮河川で、河口から70km程度の上流側まで潮汐変化の影響が及び、典型的な低平地河川の様相をもちます。また、河川水は多量の土砂を多く含んでいるため、その堆積によって同地の低平地が形成されたことが窺えます。この土砂に加え、地下には未分解の植物に由来する、泥炭層を主体として軟弱地盤が形成されています。

このような環境において、1970年ごろから広大な湿地の農業地への改良が進められました。図のようなフォークシステムが広く採用され、水門操作などを必要とせず、潮汐変動を利用して河川水を取水・排水できる構成でした。有明海ほどの潮汐変動ではないですが、潮汐によって河川水面が上昇し、その間に取水する様はアオ取水とも言えます。

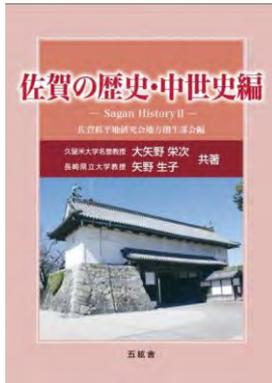
このように、同地では共通点が見られ、さらに未開発の領域も多いことから、よく観察すると佐賀低平地のかつての姿が存在していると考えられます。

しかし、現在では泥炭層に関連する重大な課題が生じています。1990年代中頃から進められた大規模開発によって泥炭層が地上に暴露されやすくなり、さらに地下水位低下によって泥炭層が乾燥し、乾期には地下火災から延焼した森林火災が発生しています。また、農地では泥炭層に含まれるパイライトが酸化され、硫酸が灌漑用水路に供給されることにより用水のpHが2~3を示しています。その結果として、用水の鉄濃度が高く河岸の草が鉄色に着色されており、土壌荒廃が進行している証左として現れています。灌漑用水の課題は食料生産に関連するので、現地大学でも課題解決に向けた研究が進められています。



図 フォークシステム(左)と鉄色の水路底泥(右)
(三島悠一郎：佐賀大学理工学部)

「佐賀の歴史 第二部—佐賀の中世史編」



近日中に刊行予定です。冊子ご希望の方は事務局までEメールでご連絡ください。※会員無料

【本書の内容】

平安時代末から鎌倉時代・室町時代・戦国時代において、この肥前の地における豪族達の栄枯盛衰の物語とその裏でもたらされた肥前陶磁器の歴史がある。文永の役と弘安の役の二つの元寇や豊臣秀吉の文禄慶長の役、そして、天草の乱や潜伏キリシタンという日本の中世の対外関係史と国内の肥前陶磁の生産とが歴史的な要因に深く関わりあっていることはあまり知られていない。

(大矢野栄次：久留米大学名誉教授)

盛土専門委員会の活動紹介

低平地研究会の主な活動の一つは、軟弱地盤対策です。有明粘土という取り扱いの難しい高含水比、高圧縮性の沖積粘土を抱える地域技術者にとっては、この課題は避けて通れません。軟弱地盤のグループ研究の一つとして、盛土委員会の活動を紹介します。

本会の狙いは、蓄積された情報の共有化、次世代への技術伝承、地域インフラの長寿命化（カーボンニュートラルへの努力）です。

3年間にわたって纏められた成果は、「固結工法による軟弱地盤上道路盛土の調査・設計・施工・管理の手引き(案)」(佐賀県県土整備部・NPO法人技術交流フォーラム)として間もなく出版され、関係者に無料配布されます。

委員18名、アドバイザー4名、外部査読者3名から出された経験・工夫・知恵が詰まっており、有明海沿岸道路をはじめ県内の道路づくりに役立つものと確信しています。(三浦哲彦)

編集後記

今年の夏は異常なほど暑かったです。インドネシア滞在中の体感、日中クーラーの効いた室内で過ごし、日が沈むと屋外でも涼しさを感じました。今年の厳しい暑さを比較すると日本の夏に軍配を上げたくくなります。

編集：三島悠一郎、後藤、武富 (lora@lora-saga.jp)
巻頭写真：中尾亮太 (佐賀大学理工学部都市工学部門)